

平成28年度 鳥取県西部地区中学校学びの共同体研究会 実施レポート

期日 平成28年1月17日(木)

会場 境港市立第一中学校

- ◎ 研究テーマ 「学びの共同体」(協同的な学び)の理論と実践
- ◎ 指導助言者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー 馬場宏明 先生

1. 公開授業(9:50～11:30)および指導助言(11:40～12:30)

(1) 1年保健体育「保健一体の発育・発達」

導入が、イラストを用意するなど生徒の関心を引くもので効果的であった。授業の初めに本時の流れを板書で示して見通しを持たせたり、グループ学習に入るときに「グループ学習の約束」を確認したりしたのもよかった。また、共有課題でのワークシートもよかった。教科書から抜き出して書くだけのものではない。教科書を真剣に読まないといけない課題がよい。グループ学習のときは、教師は生徒の活動のじゃまをせず、遠くから全体を眺めているのがよい。のぞき込んだりすると生徒は活動に集中できない。グループの発表にホワイトボードを使っていたが、問題点がある。互いに意見を言い合える関係があればよいのだが、ホワイトボードに書く生徒が中心となり、それを眺めるだけの生徒が出やすくなる。学力差がある場合は、できる生徒が書き、あとの生徒はお客になってしまう。個人で書けるワークシートを用意し、話し合いながら自分のワークシートに書き込んでいくのがよい。教師は机間巡視で出来具合を見て、頑張っている生徒を指名して、発表させたり黒板に書かせたりする。生徒が発表したとき、その解答に引っかかる部分があれば、学級全体に返していく。今の解答はどうだったか、他の生徒に投げかけ考えさせる。それが生徒を主体的な学習者に育てていく。

(2) 2年数学「図形の調べ方ー平行と合同」

「学びの共同体」の作法をよく理解した授業になっていた。グループ学習のときに、教師にばかり聞いてくる生徒がいるが、「班の人に聞きなさい」と言う。教師が個別に教えるのはよくない。先生が教えてくれると思うと、自分で考えないようになる。生徒同士をつないでいき、自分で考えられるようにしていく。グループであっても個人で考えたり活動したりすることはできる。「わからない」と言えるということは、「わかりたい」ということである。5人班があつたが多すぎる。3～4人がよい。クラス全体の学習場面で生徒が発表するときの先生の立ち位置がよかった。発表者の遠くで聞き、発表者と教師の1対1の対話にしていなかった。ただ、生徒が説明している途中でうなずいたり突っ込んだりしない。発表が終わったら、他の生徒に質問はないかと聞く。生徒からの質問がない場合、必要があれば教師が質問して学習を深めていく。生徒に説明の仕方も身につけさせていく。例えば、みんなのほうを向いて話したり黒板を指し示したりなどである。プリントを配布してから例題を黒板でしていたが、生徒の中には先生の話をおかず他の問題をしている者もいた。例題をしてからプリントを配布すべきだった。

2. 研究授業(13:50～14:40)

3年数学「相似な図形の計量ー図形と相似」(学習指導案は別紙)

授業参観の視点……「学びの共同体」(協同学習)の理論・方法を取り入れ、かわり合い学び合う主体的な活動を通して、「確かな学力と豊かな心を育み、みんなと生きる生徒の育成」をめざした学習活動の展開

①生徒が主体的に学び、学習（教科）のねらいを達成する（確かな学力を育む）ための「学ぶ値打ちのある課題」となっているか。

- ・「共有の課題」（基礎・基本、知識・理解、技能）
- ・「ジャンプ課題」（応用・発展、技能、思考・判断・表現力）

②個々の生徒の学びや、生徒同士のかかわり合い学び合い（班・全体）が成立していたか。

- ・「共有の課題」における班活動（個人作業の協同化…わからないときに聞く）
- ・「ジャンプ課題」における班活動（他者の意見を聞き、自分の考えを深め広げる）
- ・全体学習（対面）…… 表現の共有（聴き合い、生徒の意見をつなぐ）

3. 研究協議および指導助言、講義（15:00～16:50）

(1) 「学びの共同体」に基づく授業づくりについて

(2) 授業者の自評

(3) グループ討議……参加職員が4人グループに分かれて、授業参観の視点について協議し、発表。

(4) 指導助言……講師：学びの共同体スーパーバイザー（元東大阪市立金岡中学校長）馬場宏明先生

授業は最初が大事。すぐに課題に入る。今日の共有課題は難しく、ジャンプ課題になってしまった。グループ学習では、聴き合いができていた。頭を寄せ合ってやろうとしていた。生徒が育っている証拠。問題の意味がわからないので聴き合う。今日の課題は全国学力調査のような問題で、読解力が必要だった。問題を上手につくっている。生徒に考えさせることができる課題がよい。課題がよいと聴き合いが生まれる。聴き合いは信頼関係をつくり、仲間づくりにつながる。男女混合の班だから、男女の壁もなくなる。男女を分けるとお互いを性的な目つきで見ってしまう。

今日の授業では、まだ面積の相似比を教えていないので、なかなかできない。できない生徒はできる生徒に聴く。挑戦する力がついている。自力解決が大事なことを生徒が知っているので頑張る。グループ学習は、学びから逃げない生徒と全員参加の授業をつくるためのものである。答えを確認する場面（コの字の隊形）では、前に出て生徒に説明させる。教師は後ろから発表者に突っ込みを入れる。質問はないか？初めから説明してくれる？などと問いかけ、理解させていく。1日でいっぺんに力はないが、日々の繰り返しで力がついていく。教師の一方的な説明では、生徒の理解はついていかない。「記憶のピラミッド」というものがあるが、一方的な話を聴く場合の記憶は30%、対話による記憶は50%、自分で説明した場合は90%と言われている。生徒自身に、全体の場で説明させたりグループ学習の中で語らせたりすることが学習効果を上げることになる。

グループ学習における教師の机間巡視は気をつけなければならない。それぞれのグループにヒントを出さない（出し過ぎない）ようにし、自分たちで考えるよう仕向ける。教師が口を出さないグループは集中して取り組む。教師はあまり動き回らず全体を眺め、学習に参加していない生徒に声をかけるだけにする。あまり動きすぎると生徒があせってしまう。あとでどの生徒を指名するか見極める程度にする。（できている生徒を探す。）また、グループの活動時間はあらかじめ言わないようにする。活動の状況やプリントの出来具合を見て切り上げる。

ジャンプ課題は教科書外で、高校レベルのものがよい。トップの生徒がすぐにはできない難しい課題。ただし、教科書の内容から外れないようにする。学力の高い生徒も低い生徒も一緒になって考えることができる。対等な立場で意見交換ができる。学び合いが起りやすくなる。教師の声が大きいのはいけない。声のトーンを下げる。高い声は生徒の心に届かない。やさしい声は心に届く。